

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス フータル岸和田		
○保護者評価実施期間	令和7年2月17日		～ 令和7年3月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年2月17日		～ 令和7年3月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月21日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	臨床心理士、公認心理師、保育士、小学校教諭など様々な資格を有するスタッフが複数在籍しているため、それぞれの知識や経験、スキルを活かして多角的な視点から子どもたちをアセスメントし日々の支援に繋げることが出来る。	法人内の研修だけでなく、行政や他団体主催の研修などオンライン形式も含め積極的に参加することでスタッフの資質向上を図っている。研修に参加できなかったスタッフに対しても、参加したスタッフが研修内容を共有する機会を設けている。	今後も引き続き事例検討会、防災、感染症対策、虐待防止などの研修に法人内外含め積極的に参加していく。また、資格取得へ向けての講習の受講なども積極的に行っていく。
2	日々の活動プログラムについて、放課後等デイサービス計画の目標をもとに目的やねらいを設定している。その際は必要に応じて個別活動、集団活動の使い分けをしている。	活動プログラムについて、当日支援前に必ず共有を行っている。その際、子ども同士の関係性や目標設定が適切であるかをスタッフ間で検討し、適宜修正、変更を行っている。また曜日によって担当を分けて立案、作成を行うことでプログラムが固定化しないよう工夫している。	現状、プログラムの立案・作成業務を行っていないスタッフが配置されている。既存の担当スタッフから、プログラム作成時の目標設定や事前の想定等のノウハウや過去のプログラムを伝えて行くことで、人材育成に努める。またそこで学んだスタッフの得意な領域を活かした、新しい個性を持ったプログラムが作成していけるよう業務を割り当てていく。
3	利用児のこれまでの経過や現状の課題などを共有した上で、情報を適宜更新して共有を徹底している。その上で、日々の利用児の様子からそれぞれのスタッフが気づいたことや、保護者からの情報なども共有を重ね、常にそれぞれの利用児の現状に合った関わりが出来るようスタッフ間で共有し支援にあたっている。	保護者からの情報共有や利用児について気にかかったことなどがあつた際には、各スタッフが口頭の共有だけではなく書面等閲覧可能な形で情報を保存して、意識的に確認を行うことで積極的な共有を行っている。	日々の業務の中で、スタッフによって出勤日数や勤務時間が異なるという現状から、情報の伝達にむらが出る部分が課題の一つと考えられる。情報の提供、スタッフの自発的な情報の取得だけではなく、積極的な発信を行っていくことで、情報の漏れがない組織体系を構築していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や利用児童からの利用日の追加や送迎の希望など、すべてのニーズには答えることができていない。	利用日の追加については1日の利用定員の問題や、利用を待機してもらっている児童がいるという現状がある。この件に関しては、定員超過を起こさないためということと、支援の質の確保ということを重視しているため、大幅な増員が行えないということが要因として挙げられる。送迎についても希望をいただき待機してもらっている現状だが、そのすべてには答えることができていない。その要因としては、送迎スタッフの安定した配置の難しさにあると考えられる。	今後は募集中のスタッフの人材育成、送迎スタッフの安定した確保を行うことで、若干ではあるが利用児童の増員、送迎可能利用児の拡充が見込まれる。上記体制を整えた上で少しでも保護者や利用児童のニーズにこたえていきたい。
2	令和6年度自己評価表の保護者よりの要望の一つとして、日々の活動の写真等を閲覧したいという要望があった。日々の記録については、利用児童の様子が伝わるよう可能な限り詳しく記載しているが、保護者にとってもっと詳細な活動の様子が知りたいという意見を頂けることは、事業所としてもありがたいご意見と受け止めて、保護者のニーズにこたえる体制の構築が必要であるとする。	事業所開所当時より、少しずつではあるがICTを活用した事業所運営を行っている。それによりLINEによる連絡網の整備やWeb上での活動の様子の閲覧など保護者にとって情報が得やすくなっている部分では大きな変化が見られていると感じる。しかし活動中の写真等の発信については、余暇時間としても事業所外での活動や工作の作品など、一部の限られたプログラムのみになっている現状がある。	今後は個人情報に細心の注意を払いながら、日々の活動の様子や、SSTプログラムなどにおいて利用児たちが考えた結論なども合わせて発信していくことができるよう検討し、保護者への情報伝達の精度を高めていきたい。
3	家族に対しての家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）について、保護者から相談があった際には必要に応じて助言しているが、家族向けの研修の機会を設けることは出来ない。	これまでは、自己評価表や日々の保護者とのやりとりの中で、家族支援プログラム等についてのニーズがなかったため、実施には至っていなかった。	ニーズとしては多くはないが、個々に希望する声が出てきているという現状を踏まえて、その内容のニーズやメンバーなどを精査した上で、保護者のニーズに合った家族支援を提供していきたい。